



## 2020年（令和2年）<sup>ねずみ とし</sup>子年



植物が循環する様子を表している十二支の1番目に「子」が来ているように、子年を植物にたとえると新しい生命が種子の中にきざし始める時期で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になると考えられています。

また、株式相場には、「辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌笑い、亥固まる、子は繁栄、丑つまずき、寅千里を走り、卯跳ねる」という干支にちなんだ格言があります。ねずみはたくさんの子を産むことから繁栄の象徴とされ、「子年は繁栄」で上げ相場になると言われています。

また、世の中にはさまざまな見解がありますが、子年（ねずみ年）生まれの人の特徴を紹介します。ねずみが「寝ず身」になるように、真面目にコツコツと働き、儉約家でもあるので、若いうちからお金も貯まります。しかし、不要なものにはお金を使わないので、度を越すとケチとみられてしまうこともあります。勘が鋭く、ひらめきもあるので、それを活かすと難を逃れられます。また、適応能力が高く、コミュニケーションもうまいので、周囲の人を惹きつけます。（校長先生 ⇒ 子年）



### 鏡開き 無病息災などを願ってお雑煮やお汁粉に！



1月11日は「鏡開き」の日です。年神様にお供えしていた鏡餅を下げ、家族の無病息災などを願って、お雑煮やお汁粉としていただく年中行事です。江戸時代から伝わる風習と言われています。

古来、鏡開きは1月20日に行われていましたが、徳川三代将軍の家光が慶安4年4月20日に亡くなったために、月命日を避けて11日に行われるようになりました。とはいえ、今でも20日や15日に行う地域もあります。鏡餅は、木槌などで叩いて割ります。刃物を使わないのは、年神様にお供えしていたものに刃物を向けることは失礼にあたるためです。また、「割る」という言葉は縁起が悪いということで、「開く」という言葉が使われています。数百年続く行事には、祖先の崇高な思いが詰まっています。餅を二段に重ねるのは「円満に年を重ねる」という意味であり、餅の上に乗せる橙には「子孫が代々繁栄するように」という思いが込められています。

先人たちは、こうした年中行事を通して、私たちに様々なことを教えてくれているのですね。

